

タンポポ

学名： *Taraxacum platycarpum* Dahlst. 科名：キク科



春になると空き地や公園などの地面を鮮やかな黄色で覆うタンポポ。実は地域によって主に生えている種が異なります。今回掲載しているタンポポの写真はカントウタンポポで、名前の通り関東地方に多く分布している種です。

カントウタンポポの他にも、カンサイタンポポやセイヨウタンポポなどが生薬の蒲公英として用いられます。生えているタンポポがどの種かを見分ける方法のひとつとしては、総苞（そうほう）と呼ばれる、花弁と茎の間にある罅（がく）のような緑色の部分を見ます。セイヨウタンポポは総苞が下向きに反っているのが特徴です。一方で、カントウタンポポ、カンサイタンポポは総苞が上向きになっており、カンサイタンポポはカントウタンポポよりも細い総苞を有する種です。

蒲公英には苦味質の「タラクサシン」や「タラクサステロール」などが含まれています。用途としては食欲不振や消化不良、にきびなどの肌荒れを改善したり、母乳の出を良くしたりするために用いられます。また、炒ったセイヨウタンポポの根は、ヨーロッパでコーヒーの代用として普及しています。

生薬名 蒲公英(ほこうえい) 局方生薬

薬用部位 根、葉、花

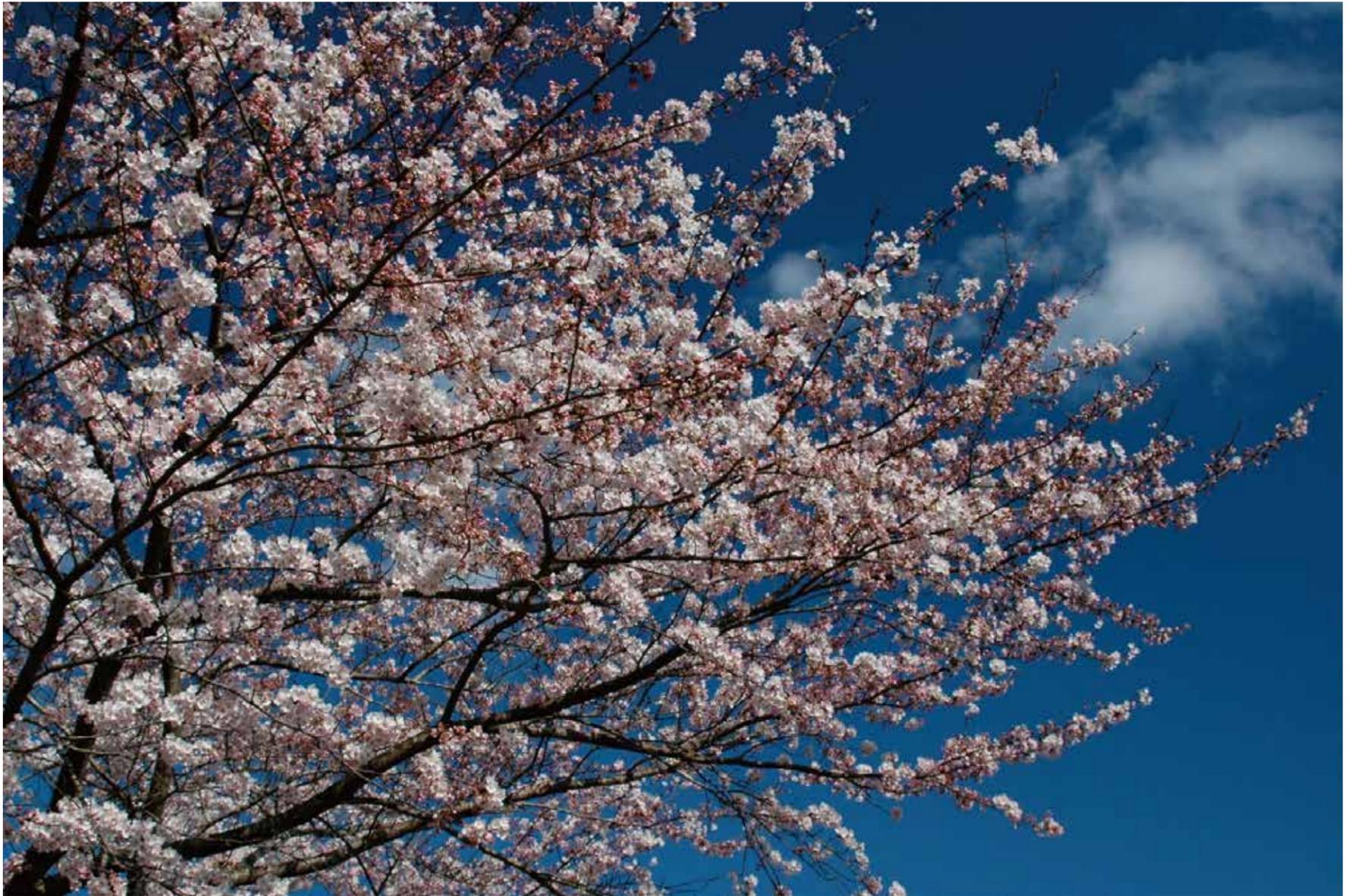
薬効 催乳、解熱、健胃、利尿作用

用途 乳汁不足、食欲不振、肌荒れの改善
五涼華（ごりょうか）、蒲公英湯（ほこうえいとう）などに配剤される。



ソメイヨシノ

学名：*Prunus yedoensis* Matsum 科名：バラ科



ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの交配で生まれた日本産の栽培品種です。

樹皮にはサクラニン、サクラネチン、グルコゲンカニン、ナリンゲニンなどのフラボノイド、樹脂、葉にはクマリン配糖体、青酸配糖体が含まれます。

樹皮を剥いで天日で乾燥させたものは桜皮と呼ばれ、薬用には主にヤマザクラの樹皮が用いられます。ヤマザクラは山野に自生する種類で、花が咲いてから葉が出てくるソメイヨシノとは違い、葉と花が同時期に出てくるのが特徴です。

解毒や鎮咳薬として咳、湿疹、蕁麻疹などに用います。桜皮は中国には無く、日本でのみ使用されている和薬です。

桜皮を含む漢方薬には十味敗毒湯があります。10種類の生薬を用いて毒素を取り除く、ということから名付けられました。化膿を抑え、皮膚の腫れや赤み、かゆみを取る薬です。

生薬名 桜皮(オウヒ)

薬用部位 樹皮

薬効 解毒、鎮咳作用

用途 去痰、咳止め、湿疹、蕁麻疹、腫れ物、できもの

